

細胞診検査		P000003		
		担当部署		
細胞診		病理		
<b>検査オーダー</b>				
患者同意に関する要求事項		該当なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示②→病理細胞検査→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		<p>下記の固定もしくは採取条件が順守されない場合には、検体の安定性が担保されない。</p> <p>1) 塗沫標本（湿潤固定）で迅速なアルコール固定。（1秒以内）</p> <p>2) 液状検体で採取から提出されるまでの時間を厳守する。時間具体的な検体別時間は以下の通り。</p> <p>①尿：3時間以内</p> <p>②喀痰：5時間以内</p> <p>③胆汁、膣液：可及的速やかに</p> <p>④体腔液：48時間以内</p> <p>⑤脳脊髄液：1時間以内</p> <p>3) やむ負えなく休日に採取された液状検体で採取後に冷蔵保存されない。</p>		
検査受付時間		8：15～16：00		
<b>検体採取・搬送・保存</b>				
患者の事前準備事項		手術、及び内視鏡、穿刺等の侵襲的検体採取では様々な準備が必要となるため、各々の担当医師、担当看護師等の指示に従う。		
検体採取の特別なタイミング		特記事項無し		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 直接塗抹検体	細胞診スライド容器 (Kartell)	湿固定の場合は添加剤として 95% アルコール固定液が必要	該当なし	該当なし
2 婦人科材料 LBC	婦人科細胞診プレザーブサイト液 (ホロジックジャパン株式会社)	53%メタノール液	該当なし	該当なし

3	その他材料液 状検体（L B C含む）	尿カップ 滅菌済みスピッツ（栄 研化学株式会社）	その他材料 LBC（針洗い液）の場 合は添加剤としてサイトライト液 （ホロジックジャパン株式会社）が 必要	該当なし	該当なし
4	喀痰・その他 穿刺材料	滅菌済みコニカル管 （栄研化学株式会社）	胸水、腹水、心嚢液の場合は添加剤 （抗凝固剤）としてアングロットが 必要	該当なし	該当なし
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) オーダーラベルがない</li> <li>2) 固定されていない（直接塗抹検体・湿固定）</li> <li>3) 標本に患者名の記入がない（直接塗抹検体）</li> <li>4) スライドが破損している場合（直接塗抹検体）</li> <li>5) 容器内の液がない（液状検体および LBC）</li> </ul>
保管検体の保存期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) スライドガラス；半永久</li> <li>2) 液状検体；冷蔵で1週間</li> <li>3) LBC；室温で3週間</li> </ul> <p>*保管検体から再検査をオーダーする場合は要連絡</p>

## 検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3階 病理診断科					
測定時間	3日～7日					
生物学的基準範囲	該当なし					
臨床判断値	該当なし					
基準値					単位	該当なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	該当なし					
臨床的意義	細胞学的検査は、組織学的検査と異なり周囲組織との関係や癌細胞の浸襲態度などを知ることができない欠点をもつが、細胞についての詳細な所見が得られ、					

質的診断はもとより組織型・原発臓器の推定・治療効果判定などにも利用されるようになり、臨床上欠くことができない方法となった。また、組織学的検査と比べて、細胞が得られさえすれば診断が可能であることから検体の採取に制約が少ないため広範な対象に適応でき、さらに患者に対する負担が軽く、標本の作製が簡便・迅速であることも大きな利点となっている。

細胞学的検査は組織学的検査とともに患者の治療方針の決定や、治療経過の観察、予後の推定などに関わる病理診断としての重要な位置を占める。

臨床検査法提要改訂第 34 版：1373-4,2015.